

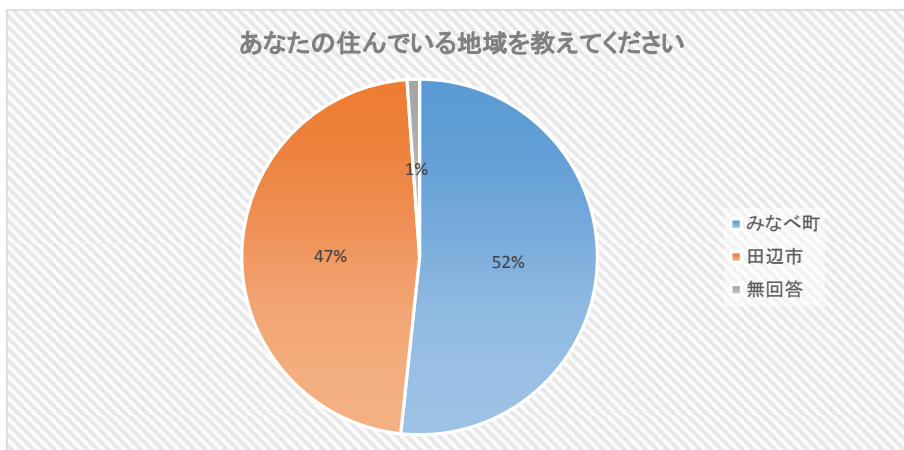
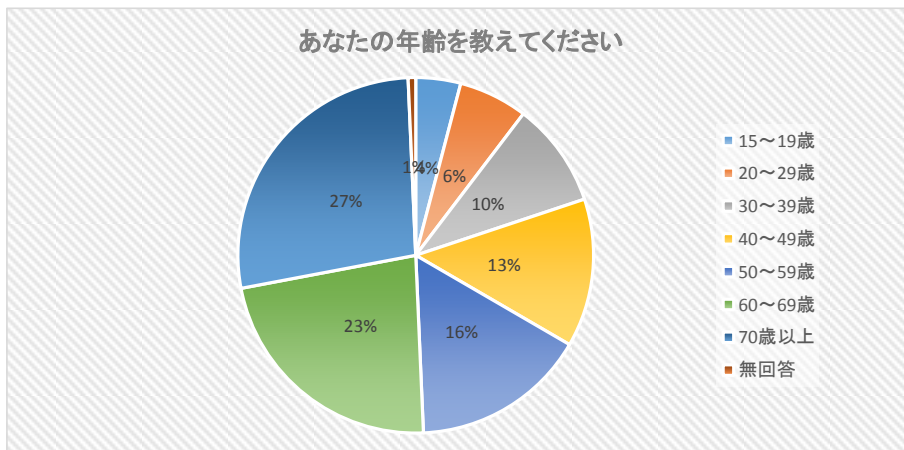
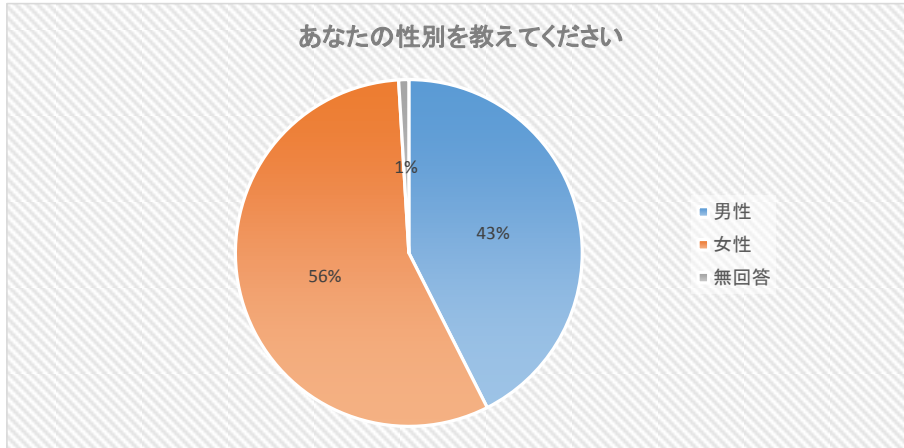
世界農業遺産「みなべ・田辺の梅システム」 住民アンケート結果

世界農業遺産「みなべ・田辺の梅システム」を活用した取組を地域一体となって進めていく上での参考とするため、みなべ町及び田辺市の15歳以上の男女を無作為抽出し、郵便にて配布、回収する方法でアンケート調査を実施しました。（総務省統計局 最低必要標本数算出手法に基づき配布枚数を算出しました。）

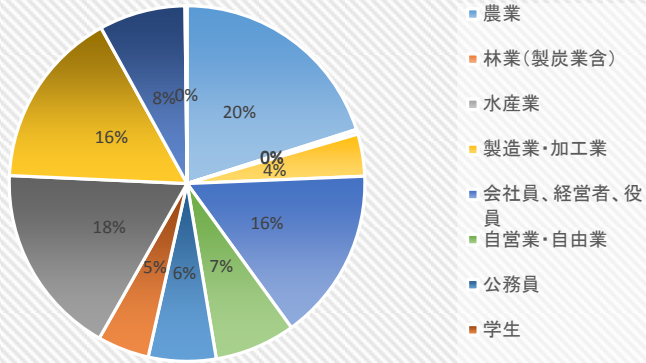
配布枚数 みなべ町2,315 田辺市2,397 計4,712

回収率は33.8%（みなべ町35.6% 田辺市31.4%）

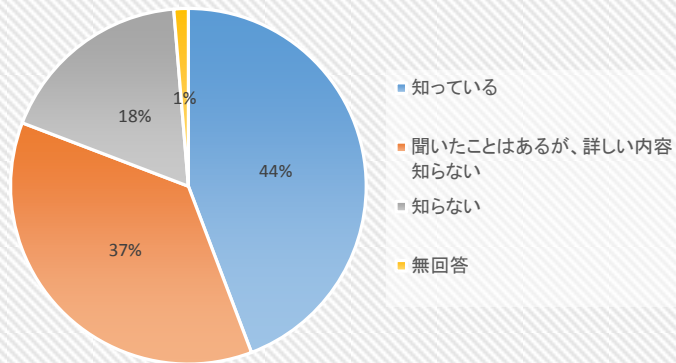
集計結果は下記のとおりです。



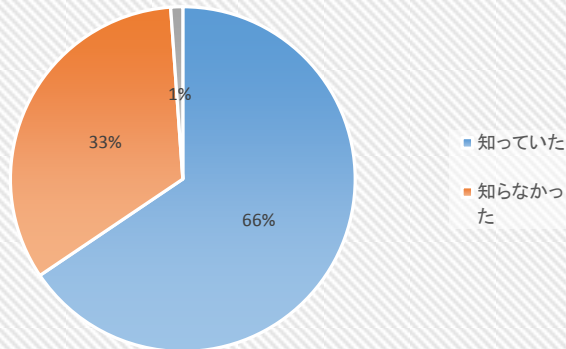
あなたのご職業を教えてください



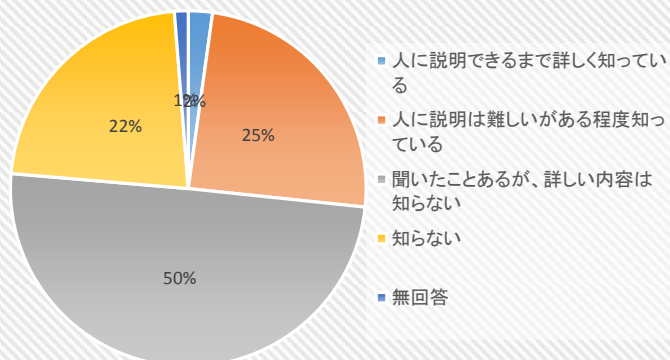
世界農業遺産という言葉を知っていますか



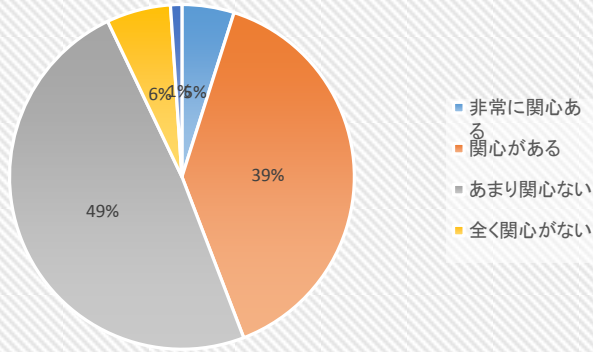
みなべ・田辺の梅システムが世界農業遺産に認定されたことを知っていましたか



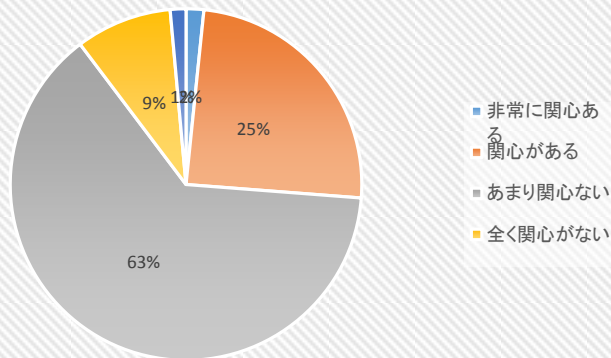
みなべ・田辺の梅システムについて、どの程度知っていますか



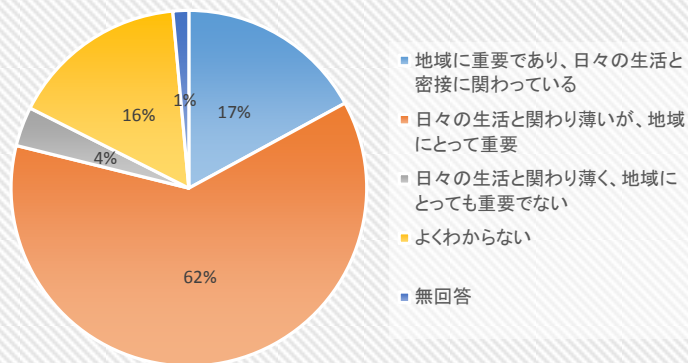
みなべ・田辺の梅システムや世界農業遺産にどの程度関心がありますか



周囲(友人や家族、職場の同僚等)は、およそどの程度みなべ・田辺の梅システムや世界農業遺産に関心があると思いますか



みなべ・田辺の梅システムをどのように捉えていますか



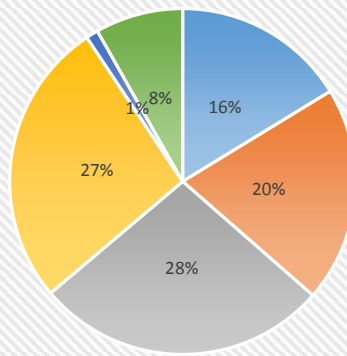
世界農業遺産とは

世界農業遺産(GIAHS : Globally Important Agricultural Heritage Systems)は、農業の大規模化、品種改良、肥料の大量使用などの近代化で失われつつある世界各地の伝統的な農業、農村の文化や景観、生物多様性に富む生態系を次世代へ保全・継承することを目的として、2002年から、国連食糧農業機関(FAO)が始めた認定制度です。持続可能な農業を実践する世界的に重要な地域として、マサイの牧畜(ケニア)やフローティングガーデン農業(バングラデシュ)など、アフリカ、ラテンアメリカおよびアジアの17カ国38地域が認定されています。現在、日本では「みなべ・田辺の梅システム」など8地域が、世界農業遺産に認定されています。

みなべ・田辺の梅システムとは

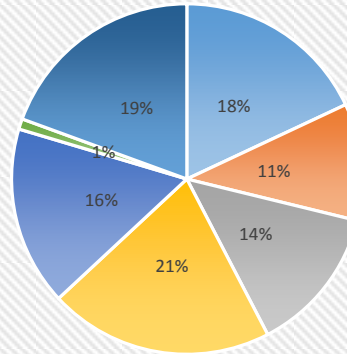
2015年12月、400年前から受け継がれてきた持続可能な梅を中心とする農業システムが世界農業遺産に認定されました。みなべ・田辺地域では、薪炭林を残しつつ、山の斜面に梅林を配置することで、水源涵養や崩落防止などの機能を持たせながら高品質な梅が生産されていること、梅の花の受粉におけるニホンミツバチの利用や里山・里地の自然環境の保全により、豊かな生物多様性を維持していることなどが、高く評価されました。

(世界農業遺産、みなべ・田辺の梅システムについて)説明を読んで知らなかったことはありますか(あてはまるもの全てに○)



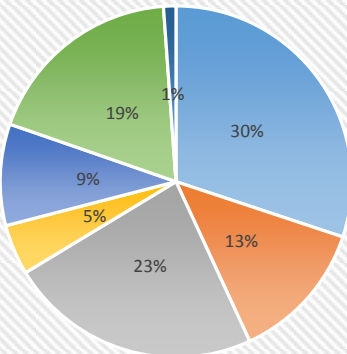
- 世界農業遺産と世界遺産が異なる
- 400年以上、梅の生産が続けられてきたこと
- 梅、炭が密接に関わり、システムを維持している
- 梅、炭を取りまく農業により、自然環境や生態系が守られている
- その他
- 特になし

みなべ・田辺の梅システムについて、より詳しく知りたいことはありますか(あてはまるもの全てに○)



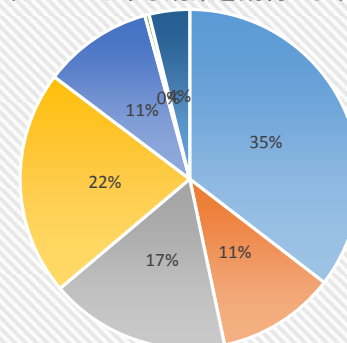
- 世界農業遺産に認定された概要
- 梅生産加工、製炭等、技術に関する詳しい内容
- 歴史や伝統文化に関する詳しい内容
- 見どころとなる場所、イベントなどの情報
- 保全・活用の取組に関する情報
- その他
- 特になし

みなべ・田辺の梅システムについて、地域みなさんに知っていただくための取り組みとして特に有効と思う方法がありますか(2つまで○)



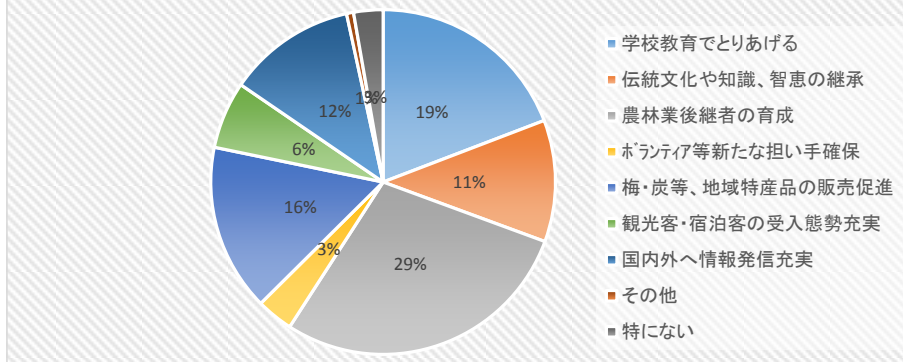
- 現地を巡るツアーや体験型イベント
- シンポジウム、ワークショップ、講習会、勉強会
- パンフレット配布
- ポスターの掲示
- 市・町のHPや広報誌で紹介
- その他
- 特になし

みなべ・田辺の梅システムが世界農業遺産に認定されたことで、今後地域にどのような効果を期待しますか(2つまで○)



- 後継者の育成など、農林業振興
- 観光客、宿泊客の増加
- 自然環境の保全
- みなべ町、田辺市、和歌山県の認知度向上
- 地域住民の地域振興の機運向上
- その他
- 特になし

みなべ・田辺の梅システムを将来世代へ継承していくために、今後
どのような取り組みが必要・重要と考えますか(2つまで○)



※上記以外の属性別等の結果につきましては、協議会事務局にお問い合わせください。